

それは、ちょっとしたチャットのつぶやきから始まった。

ねえねえ、
うちの学校から
コロナが出たらしいよ

えっ、
だれなの???

この前の登校日に
来なかった人とか？

たしか、Aさんが来なかった
よな

熱があるから、休むって
言ってたよ

やっぱりそうだよ。Aさんの家の
近くの人、何か知らない？

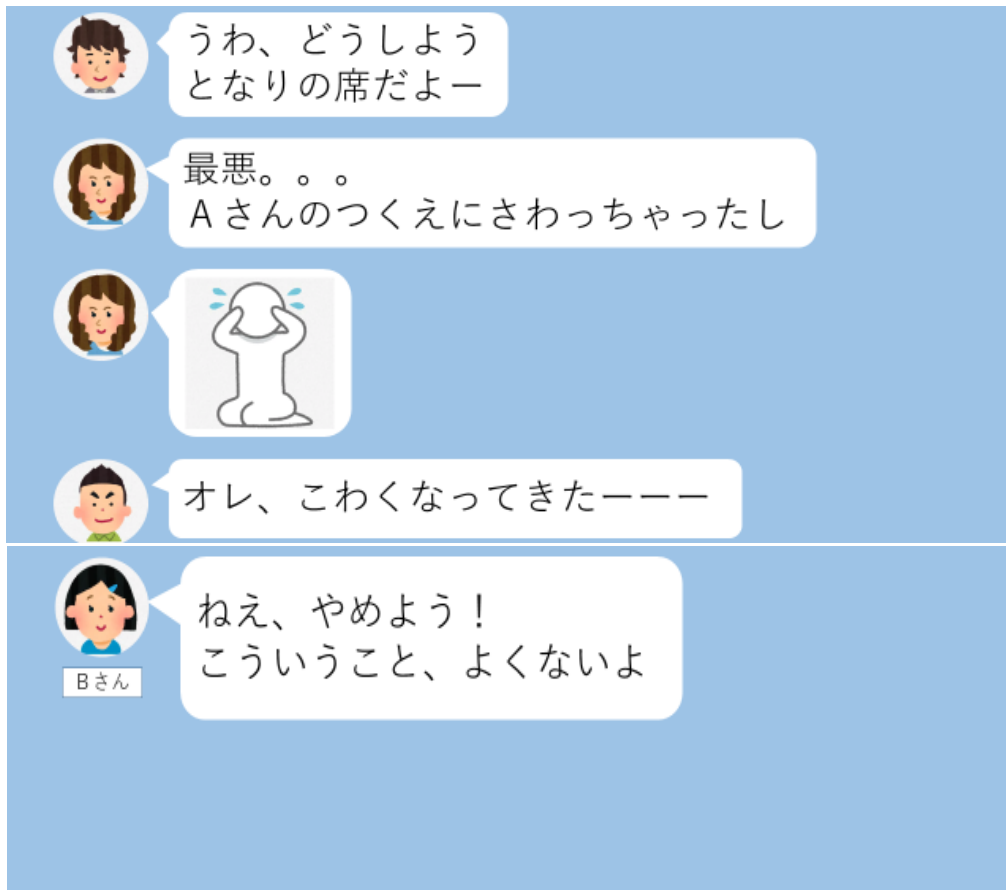
そう言えば、最近救急車が
通ったような気がするけど…

やっぱりそうだよ
Aさんだよ

本当!?

でも、Aさんだったら、
他の人にうつっているかも
しれないよね

まあ・・・
そうだね・・・



わたしは、書きこみを見て、Aさんのことが心配になってきた。本当に新型コロナウイルスに感染してしまったのだろうか。このチャットのことをAさんは、知らない。この書きこみを知ったらどう思うだろう。



そんなことを考えていたら、夕食がおいしく感じられなかった。わたしは、夕食後に、いっしょに洗いものをしているお母さんに話しかけた。

お母さんは、

「Aさん、熱があって休んでいるでしょ。そんなうわさ話にまどわされてはいけないよ。本当に感せんしているとしたら、それは、Aさんにとって、とてもつらいことなんじゃないかな。」



そう言いながら、いつものリズムでおさらを洗っていた。わたしは、すすいできれいになるおさらをじっと見つめていた。

次の日、学校に行く途中、登校してきたAさんと目が合った。